ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

平成31（2019）年
４月２７日発行
第４号

夢のふくらむ学校

海外子女文芸作品コンクールが始まりました。一人１点を目指しましょう！



同コンクールの作品集

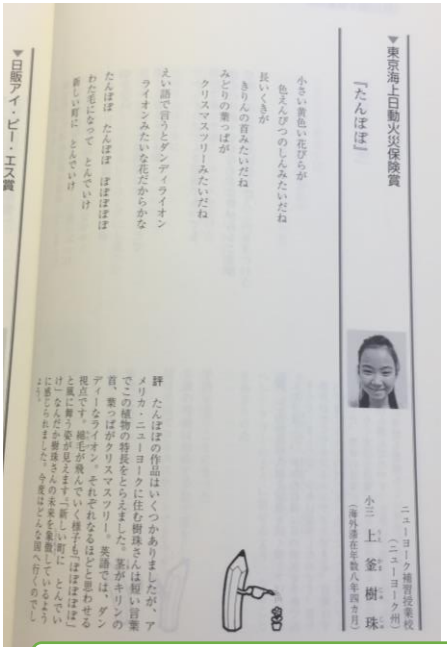
第４０回海外子女文芸作品コンクールについて

今年も、**公益財団法人　海外子女教育振興財団主催**の表記コンクールの募集が始まりました。このコンクールは、広く世界に学ぶ子どもたち（義務教育段階の子ども８３千人が長期海外在住とされています。）を対象に、日本とは言葉や風俗習慣等が大きく異なる環境で生活する中で学んだことや感じたこと、考えたことなどを年齢相応の日本語で表現してもらおうという趣旨で行われ、今年で４０回目を迎えます。

子どもたちは、毎日現地校で様々な活動を通してニューヨーク、そしてアメリカについて深く学んでいます。特に、渡米間もないお子さんにとっては、毎日がサバイバルと言っても過言ではないかもしれません。言葉も学校文化も全く違うのですから、当然です。そこで得るものは、新学力観のいうところの「生きる力」そのものに他なりません。日本の学校との違いに対する戸惑いや疑問、そして英語という言葉の壁。授業の内容はもちろん、先生やクラスメートの言っていることが分からない、という状況からのスタートです。日本からやってきた子どもたちは、多かれ少なかれ通ってきた道のりです。少しずつ、試行錯誤や失敗を繰り返し、想像を絶するような苦労を重ねながら順応していくのです。

また、在米期間が長くなり、補習校に１０年以上通う児童生徒も少なくありません。長く補習校に通っていると、日本語能力の維持・伸張はもちろんですが、仲間意識が芽生え、補習校に通うモチベーションにもなるといいます。また、自我が発達するにつれて自己のアイデンティティの確立を非常に意識するようになります。自分は日本人なのか、アメリカ人なのか、日本で生きるのか、アメリカで生きるのか、悩んだり葛藤したりした自分を振り返って、このコンクールに思いをぶつける生徒もいます。

このコンクールは、そのように日本語の力を存分に発揮すると同時に、自分の思いや考え、体験を世界中の友達と共有できるまたとないチャンスです。一人１点を目標に、制限の範囲内でできるだけたくさん応募してください。保護者の皆様におかれましては、**６月１５日の締め切り日**までに、財団のホームページ
（https://www.joes.or.jp/kojin/bungei/detail/1）
をよくご確認の上、**お子さんの作品応募にお声かけ**をよろしくお願い申し上げます。


夏の朝思わず見上げた空の青

ニューヨーク補習授業校（ニューヨーク州）中三　吉江ふづ喜
（海外滞在年数七年十一カ月）

▼東京海上日動火災保険賞
「たんぽぽ」
小三　上釜樹珠（ニューヨーク州）
（海外滞在年数八年四カ月）

▼日販アイ・ピー・エス賞

作品集所収の本校入選作品２点

４月１日、日本で5月から施行される新元号が「令和」と発表されました。約1,200年前の和歌集「万葉集」の中の文章から考案されたそうです。外務省によると、「令」は「幸先のよい（auspicious）」、「和」は「調和（harmony）」という意味合いから、日本の外務省は「美しい調和（beautiful　harmony）」と、諸外国に伝達したそうです。

日本では、気持ちも新たに新年度、最後の平成（31年）がスタートしました。ニューヨーク補習授業校も、新元号の「令和」の精神に基づいて「多様性（diversity）」を生かしながら、皆が仲良く（調和）学ぶ「学舎」でありたいと思います。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。